

府中市議会議員
東京都府中市 西宮幸一 さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 府中市出身・在住。1966年生まれ(丙午)です。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…?

A 大学卒業後4年間ほど生協に勤務。その時、同僚に「先輩がやっている会社がある」と、ごみ・環境問題のコンサルタント会社を紹介され、転職したのが直接のきっかけです。

転職した会社では、1993年に多摩地域を対象に東京都が行った「TAMA らいふ21」関連の仕事を受託しており、私は「365万人リサイクル都市の形成」というテーマでの連続シンポジウムやリサイクル啓発キャンペーン・イベントの企画運営に専属的に携わりました。「TAMA らいふ21」では、多摩地域の生活課題に取り組む広域的なネットワークづくりを狙いの一つとしていたので、多くの市民の方々と交流させていただきながら業務に関わって来ました。そのとき生まれたさまざまなご縁は、今に至る私の財産です。



地元の町会の夏祭りでは焼き鳥担当も。地域のみなさんとの交流を大切に、議員活動に取り組んでいます。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけは?

A 「TAMA らいふ21」を契機に発足した多摩地域のごみ問題ネットワークに、NPO法人「東京・多摩リサイクル市民連邦」があります。私もその会員理事であり、ほぼ同時期に、やはり多摩地域をメインの活動フィールドにされてこられた「ごみかん」には注目しておりました。そこで、十数年前に、入会させていただきました。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 2007年から府中市議会議員を務めさせていただき、2015・2016の2カ年度は副議長職に就いております。府中市は、2010年2月に、個別収集開始によるダストボックス廃止・収集有料化という「ごみ改革」を行って以降、市政を二分するようなごみ問題は起きていませんが、他の自治体同様、発生抑制推進と生ごみ対策が今後の課題として残されています。来年度にかけ実施される廃棄物処理計画の見直し作業において、こういった施策を盛り込まれるか、注目しているところです。

また地元の町会では、環境委員として、隔週の日曜朝に行われる資源回収で、磁石棒を駆使して缶類の分別作業に勤しんでいます。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 「ごみかん」の特徴は、多摩地域の実情を踏まえた調査・学習会(ごみ大学など)を継続的に進めて、「市民の役に立つ」情報を長年にわたり蓄積されてこられたことではないでしょうか。市民活動は、活動の蓄積があってはじめて発展するものです。特に、学習会の継続開催には、大いに期待をしております。